

# 老 齡 社 会 の 明 る い 側 面

～暗い面ばかりに偏見をお持ちの方々に～

やぎ たかゆき  
矢木 孝幸

●電機連合・書記次長（総合企画総務部門 兼 総合研究企画室長）

## はじめに

少子高齢化の進む日本にあって、どうも「老齢化」については、暗い論調で話が進められる傾向にあります。

本稿では、老齢化に関して、比較的明るい部分に焦点を当てて、偏見をお持ちの方々にも、「少しだけ明るい部分もあるなあ」と感じていただきたいと思います。

## 1. 栄養補助食品、インプラント&将来は再生医療

人生50年から比較すれば、退職後20年以上の「楽しむべき余生」があるとなれば、自分自身と配偶者の健康が気になるどころです。

「黒酢にんにく」や「ヒアルロン酸」など、アンチエイジングの効能をうたった栄養補助食品は、健康が気にならない若年層を相手にしていません。ベビーフードを作っていた企業が介護向けにレトルト食品を売り出すなど、ある意味、今までなかった非常に大きなマーケットが広がってきたと認識すべきでしょう。

また、何らかの原因で歯を失った際にも、今までは入れ歯で対応していたケースについて、「あと20年間、食べる楽しみを考えれば、退職金の一部を使おう」とインプラント治療を受ける決断をする方々も多くなっています。

さらに将来は、加齢を原因とする内臓疾患などの病気に対して、自らの「iPS細胞」を、その臓器の一部に変えて治療する再生医療も視野に入ってきます。失明の恐れがある黄斑変性に対する網膜移植など、すでに一部実証段階に入っているものもあり、今後は、更なる対象症例の拡大とともに、治療を受ける方々が急激に増大するものと思われます。

## 2. 増改築もスポーツカーも宅配も

自宅の増改築は「引退を機に自宅に手を入

れよう」と考える退職層が牽引力になっています。

スポーツカーに配偶者を乗せて旅行に行きたいという夢を持って、実際に実現しているのは、現役ではなく、退職前後の方々です。

加えて、大手量販店やコンビニなどでは、注文を受けてそれぞれ特徴のある商品配送を始めています。「顧客が商品を選ばないから、ちょっと質の落ちた生鮮食料品を届けよう」などという業者はすぐにドロップアウトさせられる、新たな「目利き集団」の登場と考えられます。

## 3. 利己性&社会行動性が強い大集団の登場

ちょっと困った話を一つ。筆者は関東圏に住んでいますが、年末年始に「電車内暴力を防止しましょう」等の、啓発的なポスターを目にします。てっきり忘年会で酔っ払ったサラリーマンが起こす不祥事とと思っていましたが、実は、大半は退職者による暴力事件が過半を占めています。

また、最近の話ですが、近隣に葬祭場を作ろうという動きに対して、町内会の一部に反対運動が occurred。ここまでは普通なのですが、反対派は、いわゆる「桃太郎旗」を即座に沿道に設置して、署名活動や地方議員への働きかけを開始しました。これは「社会的活動を知り抜いている」方々がメンバーになって牽引しているなあと、感じ入っていた次第です。

激烈な学生運動から社会人を経て老齢化に達した団塊世代も含めて、老齢人口の方々の動向には、「暗い影」だけに注目するだけでなく、明るい面への注目も必要でしょう。